

## 化学環境学特論第二 注意事項

### A. レポート作成ガイドライン

#### 1. 全般的なこと(すべてのレポートについて)

基本的に学術論文の形式とする。即ち、1)序論(研究背景、目的)、2)実験方法(フィールド調査のみ)、3)本論(結果と考察)、4)まとめ、の形式を採用すること。

#### 2. 化学環境学基礎レポートについて

- 1) 必ず3件以上の資料を参照してレポートを作成する
- 2) 図、表を含め A4 用紙 2 枚以上にまとめること

#### 3. 工場見学レポート

以下のポイントを例とし、工場及び研究所見学において学習したことを本論として記述すること。

- 1) 工場や研究所で実際に何が生産、あるいは研究されていたのか、特に興味を持った事項
- 2) 過去から現在に至る生産システムの改良点
- 3) 研究所スケールから工業生産へと規模を拡張するにあたっての問題点と工夫
- 4) 工場、研究所としての環境問題に対する取り組み

(重要) 上記以外に、見学にあたって

- 1) 必ず一人一回以上質問し、質疑内容を上記の本論に加えてレポートする
- 2) 印象に残った点、これまでの考えが変わった点、などを記載する

#### 4. 特別講演、一般講演のレポート

講演内容の背景にあたる部分を、論文等を利用して調査し、簡単にまとめること(背景と目的に相当)。2件の聴講中、1回以上質疑時間を利用して質問し、その内容を本論に含めること。

### B. 欠席の取り扱いについて

基礎知識確認テスト、フィールド調査、工場見学、中間発表への出席が単位認定の必要条件である。研究上の都合(学会や調査・研修旅行への参加)で出席が困難な場合、工場見学及びフィールド調査に関しては代替のレポートを課す。研究中間発表は個別に行う。止むを得ない病欠については上記に準ずる措置を検討する。